

2025. 1. 26 (日) エペソ2 : 19～20

2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。

2:20 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。

<説教>

使徒パウロはエペソの教会の人々に、「あなたがたは、神の家族なのです」と言います。〈神の家族〉とは、永遠の神の御子イエス・キリストの父なる神の家の正式な一員、「神の子」、「神の国の民」としての身分を受けた人々です。それは〈もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民〉だと言います。エペソの教会の人々は、かつては〈他国人〉〈寄留者〉だったとパウロは言います。ここで言う〈他国人〉とは「外国人旅行者」で、旅先の国籍や市民権がなく、身の安全について何の保護も望みもない人のことです。〈寄留者〉とは、ある国に住みながらもやはりその国の国籍や市民権のない人のことです。

エペソの教会の人々がかつてはそんな〈他国人〉〈寄留者〉だったとはどういうことか。それは、〈肉においては異邦人…。キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人〉(2:11-12)だったということです。別の言い方では、〈自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、…生まれながらに御怒りを受けるべき子ら〉(2:1-3)だったということです。つまり、自分の罪の故に、神の祝福を受ける望みが全くなく、受けるのは神の怒り刑罰としての永遠の滅びだけでした。〈イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人でした〉から、キリストによる神の救いの約束について知りませんでした。キリストのことを知らないので「キリストなし」「キリスト抜き」で〈この世〉を生きるほかなく、〈キリストから遠く離れ〉ていました。それで当然〈神もない〉のでした。〈この世〉にあるときに「キリストなし」なので、何よりも「キリストの血による贖い、背きの罪の赦し」(1:7)の望みがありません。それで〈この世〉にあって望みもなく、神もないのでした。〈この世〉の人、金、権力、また自分の能力、善行、思想哲学などに自分なりの〈望み〉はあったかもしれませんが。しかしキリストから遠く離れているなら〈罪の赦し〉の望みはありません。そしてそんな〈この世〉の先は永遠に〈キリストから遠く離れ〉て生きる地獄の滅びがあるのです。そういう神の〈御怒り〉を(意識的にも無意識的にも)予感して生きるほかありません。そのように、何よりもキリスト、神との関係で、キリストにある神の救いや祝福を受ける望みのない者たち、「神の国の民」としての国籍、市民権のない者たち、むしろ神と敵対している者たち、それがかつてのエペソの教会の人々でした。また〈イスラエルの民〉からも「神なき民、神の救いを受けられない罪人の異邦人」と蔑まれており、そこにも敵対関係がありました。

しかし、今は〈あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです〉とパウロはエペソの教会の人々に言いました。彼らを「キリスト・イエスにある忠実な聖徒たち」と呼びました(1:1)。今、キリスト・イエスを信じ、子母口キリスト教会に連なっている私たちも同じように呼びかけられています。

エペソの教会の人々が、そして私たちが、神の子、神の国の民、神の家族とされたのは

ただただ、キリスト・イエスのおかげです。「キリスト（・イエス）にあって」とパウロは何度も繰り返しています。〈キリストにあって、私たちはその血による贖い、背きの罪の赦しを受けています〉(1:7)。自らの罪の故に神の怒り、呪いを受けて永遠に滅びなければならない私たちのためにキリストが十字架で身代わりに死んで罪の刑罰を受けてくださり、罪の赦しをもたらしてくださいました。私たちは〈神の賜物〉(2:8)としての信仰で、この「キリストにある罪の赦し」を受け取ります。〈これは神の豊かな恵みによることです〉(2:8)。キリスト抜き、キリストなしでは誰一人として〈神の家族〉に加えて頂くことはできません。私たちはただキリストを通して神に近づくことができます(1:18)。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」(ヨハネ 14:6)と言われたイエス、〈キリストがすべて〉(コロサイ 3:11)です。私たちキリスト教会に絶対になくてはならないのは〈キリスト・イエスご自身〉(2:20)です。そして「キリストのことば」、「キリストの教え」です。

〈(あなたがたは)使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられてい〉るとパウロは言います(2:20)。十字架の死と復活の〈キリストのことば〉を聞き、キリストの教え(それには旧約聖書の正しい解釈、説き明かしも含まれます)を受け、またキリストの御霊なる聖霊の導きを受けて旧約聖書から神の〈みこころの奥義〉(1:9)を「啓示」として受け、また新たに聖霊によって「啓示」を受け、人々に伝え、教えた人々、それがここで言う〈使徒たちや預言者たち〉です。そんな〈使徒たちや預言者たち〉を用いて福音を宣べ伝えさせることによって〈キリストは来て…平和を福音として伝えられました〉(2:17)。そうやってキリストがご自身のからだなる教会をお建てになりました。キリストの教え、ことばを正しく受け継いだ〈使徒たちや預言者たち〉の教えという〈土台の上に〉キリスト教会は建てられました。キリスト教会は〈この世〉の人、金、権力、常識、原理原則の上に建てられるものではありません。教会は〈この世〉の流れに身を任せ、〈この世〉の教えに聞き従い、〈この世〉と同じ形の考え行動によって〈この世〉でうまく生き延びようとする人間集団ではありません。教会は〈キリスト・イエスにあって造られた〉〈神の作品〉(2:10)です。キリストのことばによって召し集められた〈聖徒たちと同じ国の民〉の集会(エクレーシア)です。私たちキリスト教会は〈この世にあって〉キリストだけに〈望み〉をかけて、キリストのことば、〈使徒たちや預言者たち〉の教え、聖書に聞き従わなければなりません。〈この世にあって〉キリストのことばによって悪魔と罪と闘い、打ち勝ち、キリストの栄光を現すことがキリストにあって造られたキリスト教会の究極の使命です。

〈使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられてい〉る私たち教会の〈要の石〉が〈キリスト・イエスご自身〉です。〈要の石〉を「礎石」(第三版)とすれば、それはまさに「土台のまた土台」として家(建物)の四隅に置かれた最重要な基準、不動の依って立つ支えということになります。私たち教会が信じて依り頼むべき〈要の石〉は〈キリスト・イエスご自身〉です。

〈キリスト・イエスご自身〉のことを私たちが知り、信じるための唯一の道として与えられているのが聖書です。〈キリスト・イエスご自身〉についての神の約束である旧約聖書(これも神から「派遣された者たち、預言者たち」によって書き記されました)、そして旧約の成就としての〈キリスト・イエスご自身〉のことばと教え、またそれを正しく受け継いだ〈使徒たちと預言者たち〉によって教えられ書き記された新約聖書です。この旧

新約聖書が、「すべて神の靈感によって記された誤りのない神のことばであって、神の救いのご計画の全体を啓示し、救い主イエス・キリストを顕し、救いの道を教える信仰と生活の唯一絶対の規範」です（日本同盟基督教団教憲第一条の一）。

この世にあって私たちが「キリスト者」また「キリスト教会」として、「キリストのみ」に望みを置き、「聖書のみ」を信仰と生活の絶対の規範としてキリストの御意思（みこころ）を行い、キリストのみに栄光を帰するよう、キリストの御名によって祈ります。